



平成30年12月期 第3四半期決算短信(日本基準)(連結)

平成30年11月9日

上場会社名 高橋カーテンウォール工業株式会社
 コード番号 1994 URL <http://www.t-cw.co.jp>

上場取引所 東

代表者 (役職名) 取締役社長 (氏名) 高橋 武治

問合せ先責任者 (役職名) 執行役員管理部長 (氏名) 市川 尚

TEL 03-3271-1711

四半期報告書提出予定日 平成30年11月13日

配当支払開始予定日

四半期決算補足説明資料作成の有無 : 無

四半期決算説明会開催の有無 : 無

(百万円未満切捨て)

1. 平成30年12月期第3四半期の連結業績(平成30年1月1日～平成30年9月30日)

(1) 連結経営成績(累計)

(%表示は、対前年同四半期増減率)

	売上高		営業利益		経常利益		親会社株主に帰属する四半期純利益	
	百万円	%	百万円	%	百万円	%	百万円	%
30年12月期第3四半期	4,860	1.9	574	7.9	642	9.5	397	14.2
29年12月期第3四半期	4,955	23.5	622	41.1	710	33.9	462	56.8

(注) 包括利益 30年12月期第3四半期 396百万円 (14.9%) 29年12月期第3四半期 465百万円 (56.0%)

	1株当たり四半期純利益	潜在株式調整後1株当たり四半期純利益
	円 銭	円 銭
30年12月期第3四半期	45.46	
29年12月期第3四半期	52.95	

(2) 連結財政状態

	総資産	純資産	自己資本比率	1株当たり純資産
	百万円	百万円	%	円 銭
30年12月期第3四半期	12,911	7,655	59.3	876.36
29年12月期	11,790	7,433	63.0	850.99

(参考) 自己資本 30年12月期第3四半期 7,655百万円 29年12月期 7,433百万円

2. 配当の状況

	年間配当金				
	第1四半期末	第2四半期末	第3四半期末	期末	合計
	円 銭	円 銭	円 銭	円 銭	円 銭
29年12月期		10.00		10.00	20.00
30年12月期		10.00			
30年12月期(予想)				10.00	20.00

(注) 直近に公表されている配当予想からの修正の有無 : 無

3. 平成30年12月期の連結業績予想(平成30年1月1日～平成30年12月31日)

(%表示は、対前期増減率)

	売上高		営業利益		経常利益		親会社株主に帰属する当期純利益		1株当たり当期純利益
	百万円	%	百万円	%	百万円	%	百万円	%	円 銭
通期	8,000	3.0	1,250	9.2	1,290	2.4	850	10.2	97.31

(注) 直近に公表されている業績予想からの修正の有無 : 無

注記事項

- (1) 当四半期連結累計期間における重要な子会社の異動(連結範囲の変更を伴う特定子会社の異動) : 無
新規 社 (社名) 、 除外 社 (社名)
- (2) 四半期連結財務諸表の作成に特有の会計処理の適用 : 無
- (3) 会計方針の変更・会計上の見積りの変更・修正再表示
会計基準等の改正に伴う会計方針の変更 : 無
以外の会計方針の変更 : 無
会計上の見積りの変更 : 無
修正再表示 : 無

(4) 発行済株式数(普通株式)

期末発行済株式数(自己株式を含む)	30年12月期3Q	9,553,011 株	29年12月期	9,553,011 株
期末自己株式数	30年12月期3Q	817,814 株	29年12月期	817,763 株
期中平均株式数(四半期累計)	30年12月期3Q	8,735,205 株	29年12月期3Q	8,735,248 株

四半期決算短信は公認会計士又は監査法人の四半期レビューの対象外です

業績予想の適切な利用に関する説明、その他特記事項

本資料に記載されている業績見通し等の将来に関する記述は、本資料の発表日現在において入手可能な情報に基づき算定しており、今後の経済状況等の変化により、実際の業績は予想値と異なる結果となる場合があります。業績予想の前提となる条件及び業績予想のご利用にあたっての注意事項等については、四半期決算短信(添付資料)3ページの「(3)連結業績予想などの将来予測情報に関する説明」をご参照下さい。

○添付資料の目次

1. 当四半期決算に関する定性的情報	2
(1) 経営成績に関する説明	2
(2) 財政状態に関する説明	3
(3) 連結業績予想などの将来予測情報に関する説明	3
2. サマリー情報(注記事項)に関する事項	3
(1) 当四半期連結累計期間における重要な子会社の異動	3
(2) 四半期連結財務諸表の作成に特有の会計処理の適用	3
(3) 会計方針の変更・会計上の見積りの変更・修正再表示	3
3. 四半期連結財務諸表	4
(1) 四半期連結貸借対照表	4
(2) 四半期連結損益計算書及び四半期連結包括利益計算書	6
(3) 四半期連結財務諸表に関する注記事項	8
(継続企業の前提に関する注記)	8
(株主資本の金額に著しい変動があった場合の注記)	8
(セグメント情報等)	8
(重要な後発事象)	8

1. 当四半期決算に関する定性的情報

(1) 経営成績に関する説明

当第3四半期連結累計期間における日本の経済は、企業収益が好調に推移し、雇用・所得環境も良好な状況が続くなど景気は緩やかな回復基調が持続しておりますが、海外においては、米国利上げや米中貿易摩擦問題等、今後わが国経済に悪影響を及ぼしかねない要因も多く、先行き不透明な状況が続いております。

このような状況の下、当社の属する建設業界はオリンピック前の風のように仕事が少ない時期を経て、建設ラッシュがピークを迎え、大変な活況を呈しています。仕事が潤沢にある一方で、人手不足、輸送費の上昇、資材の納入遅れなど、さまざまな課題が噴出しています。

PCカーテンウォール業界も、業界各社が力を合わせてもさばききれないほどの需要が発生しております。

当社のPCカーテンウォール事業は、仕事をお断りせざるをえないほどの恵まれた受注環境な一方、技術的に、規模的に当社しかできない案件は、生産力の限界を超えて受注せざるをえない状況です。そのため、通常よりも割高な労働力や、資材、外注工場を活用せざるをえず、様々なコストが上昇し、工場稼働率向上に伴う利益上昇を減殺する要因となっています。こうした高水準の生産量の中で、品質と納期を守りながら安全に生産・出荷・取付し、ゆくことが今後の課題です。

プールを手掛けるアクア事業では、主力である学校やスポーツクラブのプール以外のリニューアル工事事業の拡大を図っております。

当社企業グループの業績は売上高は48億60百万円（前年同四半期比1.9%減）、営業利益5億74百万円（前年同四半期比7.9%減）、経常利益6億42百万円（前年同四半期比9.5%減）、親会社株主に帰属する四半期純利益3億97百万円（前年同四半期比14.2%減）となりました。

なお、受注高は92億25百万円（前年同四半期比37.4%増）、受注残高は191億62百万円（前連結会計年度末比29.5%増）となりました。

セグメントの業績を示すと、次のとおりであります。

①PCカーテンウォール事業

当第3四半期連結累計期間においては、当セグメントの売上高は47億37百万円（前年同四半期比2.9%増）となりました。

当第3四半期連結会計期間はセグメント売上が9億27百万円に留まった（第1、第2四半期連結会計期間平均の半分以下）ことと、工場稼働の期間があった影響で利益率がやや低下したこともあり、当第3四半期連結会計期間単独では22百万円のセグメント損失となりました。

したがって、当第3四半期連結累計期間のセグメント利益は6億21百万円（前年同四半期比0.2%減）となりました。

なお、売上のトレンドに季節性はありません。当社は、当社製造の外壁パネルが建物に取り付け終わった段階で売上計上しますが、外壁パネルを取り付ける計画は、建設現場の計画の変更に応じて日々変化しています。昨今は、建設ラッシュの影響で鉄骨をはじめ、さまざまな部材の供給遅れにより、建設現場の工期が遅れてきており、それにつれて当社の外壁パネルの取付、および売上計上も先送りになる傾向が強まっています。

②アクア事業

当第3四半期連結累計期間においては、学校関連及びフィットネスクラブのプールの新設・改修の受注は予定を下回りました。

当セグメントの売上高は86百万円（前年同四半期比70.6%減）、セグメント損失は32百万円（前年同四半期は11百万円のセグメント利益）となりました。

③その他

その他は報告セグメントに含まれない事業セグメントであり、システム収納家具事業と建設事業（不動産賃貸事業を含む）であります。

当セグメントの売上高は35百万円（前年同四半期比34.4%減）、セグメント損失は20百万円（前年同四半期は17百万円のセグメント損失）となりました。

(2) 財政状態に関する説明

①資産の状況

当第3四半期連結会計期間末における資産合計は129億11百万円と前連結会計年度末と比較して11億20百万円の増加となりました。これは主に未成工事支出金が22億52百万円増加したことと、現金預金が5億33百万円及び電子記録債権が7億7百万円減少したことによるものであります。

②負債の状況

当第3四半期連結会計期間末における負債合計は52億56百万円と前連結会計年度末と比較して8億99百万円の増加となりました。これは主に支払手形・工事未払金等が4億25百万円、未成工事受入金が2億4百万円及び未払法人税等が2億2百万円増加したことによるものであります。

③純資産の状況

当第3四半期連結会計期間末における純資産合計は76億55百万円と前連結会計年度末と比較して2億21百万円の増加となりました。これは主に利益剰余金が、親会社株主に帰属する四半期純利益の計上により3億97百万円増加したことと、配当金の支払いにより1億74百万円減少したことにより2億22百万円増加したことによるものであります。

(3) 連結業績予想などの将来予測情報に関する説明

平成30年2月9日に公表いたしました連結業績予想と変更はありません。

2. サマリー情報(注記事項)に関する事項

(1) 当四半期連結累計期間における重要な子会社の異動

該当事項はありません。

(2) 四半期連結財務諸表の作成に特有の会計処理の適用

該当事項はありません。

(3) 会計方針の変更・会計上の見積りの変更・修正再表示

該当事項はありません。

2. 四半期連結財務諸表

(1) 四半期連結貸借対照表

(単位：千円)

	前連結会計年度 (平成29年12月31日)	当第3四半期連結会計期間 (平成30年9月30日)
資産の部		
流動資産		
現金預金	1,198,859	665,281
受取手形・完成工事未収入金等	923,444	500,174
電子記録債権	1,846,180	1,138,552
未成工事支出金	2,900,530	5,152,927
その他のたな卸資産	70,166	90,482
その他	89,585	316,314
流動資産合計	7,028,767	7,863,732
固定資産		
有形固定資産		
建物・構築物(純額)	456,551	584,898
土地	1,846,191	1,846,191
その他(純額)	444,895	564,019
有形固定資産合計	2,747,638	2,995,109
無形固定資産		
	42,217	38,778
投資その他の資産		
投資有価証券	225,592	223,093
保険積立金	856,713	902,475
投資不動産(純額)	125,262	124,644
退職給付に係る資産	112,780	111,334
その他	668,544	668,928
貸倒引当金	△16,567	△16,567
投資その他の資産合計	1,972,325	2,013,908
固定資産合計	4,762,181	5,047,797
資産合計	11,790,948	12,911,529
負債の部		
流動負債		
支払手形・工事未払金等	631,255	1,056,384
短期借入金	564,000	637,000
1年内償還予定の社債	100,000	100,000
未払法人税等	58,359	260,789
未成工事受入金	1,329,390	1,533,503
引当金	71,918	147,990
その他	312,869	247,502
流動負債合計	3,067,793	3,983,170
固定負債		
社債	160,000	60,000
長期借入金	531,000	620,000
役員退職慰労引当金	437,952	454,498
その他	160,554	138,643
固定負債合計	1,289,506	1,273,141
負債合計	4,357,299	5,256,312

(単位：千円)

	前連結会計年度 (平成29年12月31日)	当第3四半期連結会計期間 (平成30年9月30日)
純資産の部		
株主資本		
資本金	100,000	100,000
資本剰余金	3,283,363	3,283,363
利益剰余金	4,238,980	4,461,354
自己株式	△238,389	△238,430
株主資本合計	7,383,953	7,606,287
その他の包括利益累計額		
その他有価証券評価差額金	49,694	48,930
その他の包括利益累計額合計	49,694	48,930
純資産合計	7,433,648	7,655,217
負債純資産合計	11,790,948	12,911,529

(2) 四半期連結損益計算書及び四半期連結包括利益計算書

四半期連結損益計算書

第3四半期連結累計期間

(単位：千円)

	前第3四半期連結累計期間 (自平成29年1月1日 至平成29年9月30日)	当第3四半期連結累計期間 (自平成30年1月1日 至平成30年9月30日)
完成工事高	4,955,090	4,860,311
完成工事原価	3,801,188	3,756,925
完成工事総利益	1,153,902	1,103,385
販売費及び一般管理費	530,906	529,334
営業利益	622,995	574,051
営業外収益		
受取利息	387	334
受取配当金	1,241	1,704
投資有価証券売却益	7,102	-
投資不動産賃貸料	6,114	5,881
受取家賃	8,838	10,447
鉄屑売却収入	18,084	29,952
テナント退店違約金受入益	55,400	19,576
その他	10,756	13,639
営業外収益合計	107,925	81,536
営業外費用		
支払利息	14,012	8,845
不動産賃貸費用	2,614	2,392
その他	4,199	1,938
営業外費用合計	20,826	13,176
経常利益	710,094	642,410
特別利益		
固定資産売却益	-	1,149
特別利益合計	-	1,149
特別損失		
固定資産売却損	9,923	-
固定資産除却損	3,431	3,161
特別損失合計	13,354	3,161
税金等調整前四半期純利益	696,739	640,399
法人税、住民税及び事業税	5,833	288,841
法人税等調整額	228,353	△45,520
法人税等合計	234,186	243,321
四半期純利益	462,553	397,078
親会社株主に帰属する四半期純利益	462,553	397,078

四半期連結包括利益計算書

第3四半期連結累計期間

(単位：千円)

	前第3四半期連結累計期間 (自平成29年1月1日 至平成29年9月30日)	当第3四半期連結累計期間 (自平成30年1月1日 至平成30年9月30日)
四半期純利益	462,553	397,078
その他の包括利益		
その他有価証券評価差額金	2,996	△764
その他の包括利益合計	2,996	△764
四半期包括利益	465,549	396,314
(内訳)		
親会社株主に係る四半期包括利益	465,549	396,314

(3) 四半期連結財務諸表に関する注記事項

(継続企業の前提に関する注記)

該当事項はありません。

(株主資本の金額に著しい変動があった場合の注記)

該当事項はありません。

(セグメント情報等)

I 前第3四半期連結累計期間(自 平成29年1月1日 至 平成29年9月30日)

報告セグメントごとの売上高及び利益の金額に関する情報

(単位：千円)

	報告セグメント			その他 (注)1	合計	調整額 (注)2	四半期連結損 益計算書計上 額 (注)3
	PCカーテン ウォール事業	アクア事業	計				
売上高							
外部顧客への売上高	4,604,656	295,992	4,900,649	54,441	4,955,090	—	4,955,090
セグメント間の内部売 上高又は振替高	—	—	—	—	—	—	—
計	4,604,656	295,992	4,900,649	54,441	4,955,090	—	4,955,090
セグメント利益又はセ グメント損失(△)	622,783	11,331	634,115	△17,419	616,695	6,300	622,995

(注) 1 「その他」の区分は、報告セグメントに含まれない事業セグメントであり、システム収納家具事業と建設事業(不動産賃貸事業を含む)であります。

2 セグメント利益又はセグメント損失(△)の調整額6,300千円は、セグメント間取引消去であります。

3 セグメント利益又はセグメント損失(△)は、四半期連結損益計算書の営業利益と調整を行っております。

II 当第3四半期連結累計期間(自 平成30年1月1日 至 平成30年9月30日)

報告セグメントごとの売上高及び利益又は損失の金額に関する情報

(単位：千円)

	報告セグメント			その他 (注)1	合計	調整額 (注)2	四半期連結損 益計算書計上 額 (注)3
	PCカーテン ウォール事業	アクア事業	計				
売上高							
外部顧客への売上高	4,737,599	86,999	4,824,598	35,712	4,860,311	—	4,860,311
セグメント間の内部売 上高又は振替高	—	—	—	1,000	1,000	△1,000	—
計	4,737,599	86,999	4,824,598	36,712	4,861,311	△1,000	4,860,311
セグメント利益又はセ グメント損失(△)	621,568	△32,226	589,341	△20,990	568,351	5,700	574,051

(注) 1 「その他」の区分は、報告セグメントに含まれない事業セグメントであり、システム収納家具事業と建設事業(不動産賃貸事業を含む)であります。

2 セグメント利益又はセグメント損失(△)の調整額5,700千円は、セグメント間取引消去であります。

3 セグメント利益又はセグメント損失(△)は、四半期連結損益計算書の営業利益と調整を行っております。

(重要な後発事象)

該当事項はありません。